

② 期 日 9月25日(木)～27日(土)

③ 会 場 福島県教育センター

④ 主 題

ア、全校的協力に基づく生徒指導はどのように進めたらよいか。

イ、生徒指導を効果的に進めるために、どのようにして、中学校との連携を深め、家庭の協力を得たらよいか。

ウ、反社会的行動など問題に走りやすい生徒に対し、学校生活や社会生活に適応させるためにはどのように指導したらよいか。

⑤ 参加者数 87校から89名

#### (5) 福島県高校生の集い

① 趣 旨

この集いは、県内高校生が次代を担う者としての誇りと責任についての自覚を高め、かつ、その使命を果たすためどのような心構えを持ち、どのような生き方をなすべきかについて考える機会をつくり、高校生としての人格や識見及び能力を養うための一つの契機にしようとするものである。

② 主 催

福島県教育委員会、福島高等学校長協会、福島県高等学校生活指導協議会

③ 期 日

7月29日(火)～8月29日(金) 3泊4日 5回 10団

④ 場 所 国立磐梯青年の家(猪苗代町)

⑤ 参加者

県内公私立高等学校1年生 814名(96校)

⑥ 助言指導者 参加各校の引率教員 96名

⑦ 内 容

交歓会(学校紹介)、討議(より豊かな高校生活を送るために、日常の問題にどのように取り組んだらよいか。)講演(福島女子高校長、県文化センター所長、県知事、県教育長、福島工業高校長)、奉仕活動、レクリエーション、先生と生徒の座談会、野外活動、キャンドルサーブス、反省とまとめ。

### 3 進路指導

#### (1) 進路指導講習会

① 目 的

中学校及び高等学校の進路指導に関する必要な専門的事項について講習を行い、進路指導の充実を期する。

② 主 催 福島県教育委員会

③ 期日・会場

昭和50年9月4日(木) 県立会津女子高校

昭和50年9月25日(木) 県立相馬農業高校

昭和50年10月9日(木) 県立磐城女子高校

④ 参加者

ア、中学校 進路指導主事、進路指導担当者、学級担任の中から1名

イ、高等学校 ホームルーム担任並びにホームルーム係等2名～3名

⑤ 参加者数

会津地区 中学校63名 高等学校63名 計 126名

相双地区 中学校28名 高等学校33名 計 61名

いわき地区 中学校42名 高等学校46名 計 88名

⑥ 講習の内容

ア、学級(ホームルーム)における進路指導の進め方  
イ、進路指導上の問題点

⑦ 講 師

県教育庁義務教育課、高等学校教育課指導主事、

茨城大学講師 佃 直 毅

#### (2) 県立学校進路指導主事研修会

① 目 的

県立学校の進路指導主事に対し、進路指導に必要な専門的事項について研修を行い、資質の向上を図り、進路指導の充実を期する。

② 主 催 福島県教育委員会

③ 期 日 昭和49年4月30日(木)～5月2日(金)

④ 会 場 福島県教育センター

⑤ 参加者 県立学校進路指導主事 93名

⑥ 内 容

ア、指示伝達

イ、研究発表

情報の収集とその活用例 平工業高等学校

ウ、講 演

文部省教科調査官 荒井昭雄

進路指導の当面する問題点

エ、講 義

立正女子大学教授 仙崎武

進路指導実践のためのモデルとプログラム

オ、研究協議

○ 第1分科会

進路指導の年間計画はいかにあるべきか

○ 第2分科会

進路情報の収集とその活用について

○ 第3分科会

学校の実態に合った進学指導はいかにあるべきか

⑦ 講 師

県商工労働部職業安定課職業指導官

県教育庁高等学校教育課指導主事

## 第6節 特別活動 (義務教育課)

### 1 昭和50年度指導の重点

特別活動全体をとおして、調和と統一がとれた指導ができれば、全教師が協力して全体計画及び各内容ごとに指導改善を加え、地域や学校の実態・児童生徒の心身の発達段階や特性を考慮し、自発的・自治的な活動が助長されるよう、次の点を重点として指導の徹底を図った。

(1) 指導計画の整備・充実を図る。

(2) 指導体制の確立を図り、児童生徒が自発的・自治的に活動できるよう指導の徹底を図る。